

# 安全データシート (SDS)

作成・改訂日 2019年2月27日

## 1. 化学品等及び会社情報

製品の名 称 酸化マグネシウム錠 250mg 「ケンエー」  
酸化マグネシウム錠 330mg 「ケンエー」  
酸化マグネシウム錠 500mg 「ケンエー」

会 社 名 健栄製薬株式会社  
住 所 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号  
担 当 部 門 学術情報部  
電 話 番 号 06(6231)5822  
F A X 番 号 06(6204)0750  
連 絡 先 健栄製薬株式会社 学術情報部

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

#### 【健康に対する有害性】

急性毒性 (経口) : 区分外  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分3  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2  
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性)

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。

### GHS ラベル要素

#### 【絵表示又はシンボル】

該当なし

#### 【注意喚起語】

該当なし

#### 【危険有害性情報】

軽度の皮膚刺激  
眼刺激  
呼吸器への刺激のおそれ

#### 【注意書き】

##### [安全対策]

取扱い後はよく手を洗うこと。  
適切な量を適切な用途で使用すること。

##### [保管]

直射日光を避け、湿気の少ない涼しい所に保管すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名又は一般名	: 酸化マグネシウム
別名	: マグネシア
濃度又は濃度範囲	: 下記の酸化マグネシウムを含有する

	1錠あたりの含有量
酸化マグネシウム錠 250mg 「ケンエー」	250mg
酸化マグネシウム錠 330mg 「ケンエー」	330mg
酸化マグネシウム錠 500mg 「ケンエー」	500mg

分子式 (分子量)	: MgO (40.304)
CAS番号	: 1309-48-4
官報公示整理番号 (化審法)	: (1)-465
官報公示整理番号 (安衛法)	: データなし
添加物	: ステアリン酸カルシウム、結晶セルロース、クロスカルメロースナトリウム、香料

### 4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚に付着した場合	: 多量の水で洗う。 皮膚に刺激が残る場合は、医師の手当て、診察を受ける。
眼に入った場合	: 水で15分以上注意深く洗う。また、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。 眼に刺激が残る場合は、医師の手当て、診察を受ける。
飲み込んだ場合	: 水で口をすすぐ。大量に飲み込んだ場合は、直ちに医師の手当て、診察を受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: (吸入) 呼吸器粘膜を刺激して咳が出ることがある。 (皮膚) 長時間付着すると肌あれを起こすことがある。 (眼) 痛み、粘膜刺激を感じることもある。 (大量摂取) 嘔吐、腹痛、水様性下痢がみられることがある。
応急措置をする者の保護	: 状況に応じて適切な保護具 (手袋、眼鏡、着衣など) を着用する。

### 5. 火災時の措置

消火剤	: 酸化マグネシウムは可燃性固体でない。火災の状況に応じ、水噴射、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素などを使用する。
使ってはならない消火剤	: 特になし。
特有の危険有害性	: 毒性の強い物質 (一酸化炭素ガスなど) が発生する可能性がある。
特有の消火方法	: 火災場所の周辺への関係者以外の立ち入りを規制する。 危険でなければ火災区域から製品を移動させる。
消火を行う者の保護	: 消火作業に適切な保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 作業者は適切な保護具を着用し、眼や皮膚との接触及び吸入を避ける。
環境に対する注意事項	: 製品をみだりに下水や河川に流したり、土壌中に捨てたりしない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 掃き集めるなどの方法で製品を回収し、排水溝や下水溝などへの流入を防ぐ。
二次災害の防止策	: 特になし。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 【取扱い】

技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	: 製品をみだりに粉砕しない。 黒ずみを生じるので、金属との接触を避ける。 眼に入れたり、皮膚に長時間触れたりしないように取り扱う。 取扱い後は手をよく洗う。
接触回避	: 「10. 安定性及び反応性」を参照
衛生対策	: 取扱いは清浄な環境下で行い、取扱い後は手をよく洗う。

### 【保管】

安全な保管条件	: 直射日光を避け、湿気の少ない涼しい所に保管する。
安全な容器包装材料	: 所定の包装容器を使用し、別の容器に移し替えない。

## 8. ばく露防止及び保護措置 (酸化マグネシウムとして)

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会 (2015年版)	: 第3種粉じん 2mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉じん)、8mg/m <sup>3</sup> (総粉じん)
ACGIH (2015年版)	: TLV-TWA 10mg/m <sup>3</sup>
設備対策	: 大量に取扱う場合には必要に応じ、局所排気設備や集じん設備、手洗い設備を設置する。
保護具	: (呼吸用) 粉じんが発生する場合は適切な防じんマスクを着用する。 (手) 適切な保護手袋を着用する。 (眼) 適切な保護眼鏡やゴーグルを着用する。 (皮膚及び身体) 適切な保護衣などを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
形状	: 円形の固形物
色	: 白色
臭い	: わずかに特異な芳香がある
pH	: 約 10.5
融点・凝固点	: 2800°C (酸化マグネシウムとして)
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 3600°C (酸化マグネシウムとして)
引火点	: 不燃性
燃焼又は爆発範囲	: 情報なし
蒸気圧	: 0mmHg (20°C) (酸化マグネシウムとして)
比重 (20°C、20°C)	: 約 3.7 (酸化マグネシウムとして)
溶解度	: 水に微溶
自然発火温度	: 不燃性

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 不燃性
化学的安定性	: 酸化マグネシウムは室温で安定であるが、吸湿 (吸水) 性があり、吸湿により水酸化マグネシウムに変化したり、炭酸ガス及び水分を吸収して炭酸マグネシウムに変化したりする。

危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 高温多湿
混触危険物質	: 強酸類
危険有害な分解生成物	: 情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: 【GHS 分類】 区分外 酸化マグネシウムとしてラットのLD50 値が 3,870mg/kg (雄)、3,990mg/kg (雌) との報告に基づき、「区分外」とした。
経皮	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
吸入 (ガス)	: 【GHS 分類】 分類対象外 GHS 定義における固体であり、分類対象外。
吸入 (蒸気)	: 【GHS 分類】 分類対象外 GHS 定義における固体であり、分類対象外。
吸入 (粉じん及びミスト)	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 【GHS 分類】 区分3 酸化マグネシウムが長時間付着すると肌あれを起こすことがあるため、「区分3」とした。
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	: 【GHS 分類】 区分2 酸化マグネシウムのダストにより、軽度の眼刺激性がみられたとの記載から、「区分2」とした。
呼吸器感作性	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
発がん性	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 【GHS 分類】 区分3 (気道刺激性) 酸化マグネシウムは気道刺激性があるとの報告があるが、その他の急性影響は報告されておらず、「区分3 (気道刺激性)」とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性	: 【GHS 分類】 分類できない データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

生体毒性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生体蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし

オゾン層への有害性 : 本製品の成分はモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

---

### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い、適切に処理する。  
汚染容器及び包装 : 関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い、適切に処理する。  
なお、環境に配慮し、リサイクル可能な容器や包装はリサイクルすることが望ましい。

---

### 14. 輸送上の注意

国際規制 : 特段の規制なし  
国内規制 : 特段の規制なし  
特別の安全対策 : 輸送に際しては直射日光や高温多湿の環境を避け、容器の破損などがないように積み込み、煮崩れの防止を確実に行う。

---

### 15. 適用法令（酸化マグネシウムとして）

労働安全衛生法 : 該当しない  
化学物質排出把握管理促進法 : 該当しない  
消防法 : 該当しない  
毒物及び劇物取締法 : 該当しない  
船舶安全法 : 該当しない  
航空法 : 該当しない

---

### 16. その他の情報

引用文献 :

- 1) NITE GHS 分類 (平成 25 年度)
  - 2) ICSC(2010)
  - 3) HSDB(2015)
  - 4) ACGIH(7th, 2003)
- 

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施の上でご利用下さい。記載内容は情報提供であって保証するものではありません。